

茨城大学社会公開セミナーのご案内

日立財団は、日立製作所元副社長である故高尾直三郎氏のご遺族から寄贈いただいた基金を活用して、茨城大学と共催で「茨城大学社会公開セミナー：実践産業技術特論（金属の溶接・接合技術）」を開催しています。

本講座は産業界における機械工学の基礎技術に関して実学を中心に幅広い技術内容を学び、次世代を担う産業人へと成長する人財を育成することを目的としたもので、茨城大学の大学院生のほか、企業の関連技術者の受講も募集致します。

内 容：溶接・接合の現状や問題点、溶接と金属組織や最新の接合技術についての講義

対 象 者：茨城大学の大学院生 及び企業の関連技術者

受 講 料：無料

開 催 日：2016年10月5日～2017年1月25日の水曜日、全11回

【講義時間はいずれも18:00～19:30】

※ご希望の講義のみの受講も可能

- 講義題目：① 10/5(水) 鉄鋼材料の熱処理と組織
 ② 10/12(水) 金属の溶接と接合技術
 ③ 10/19(水) 溶接に関する信頼性評価技術
 ④ 10/26(水) 鉄鋼材料の溶接技術
 ⑤ 11/ 2(水) ステンレス材料の溶接技術
 ⑥ 11/16(水) 溶接構造物の非破壊試験技術
 ⑦ 11/30(水) 大物溶接構造物の溶接技術
 ⑧ 12/14(水) 大型建設機械の溶接と機械接合技術
 ⑨ 1/11(水) 非鉄金属の熱処理と金属組織
 ⑩ 1/18(水) アルミニウム合金と溶接特性
 ⑪ 1/25(水) 摩擦攪拌接合(FSW)の基礎と応用

場 所：(日立市中成沢町)茨城大学工学部 E1棟 10番教室

申込方法：受講ご希望の方は、事前に「ご所属、お名前、受講日」を次のいずれかの方法でご連絡ください。

【日立財団 茨城事務所】

・メール：kinenkai_odaira@pis.hitachi.co.jp

・電 話：0294-22-7733

社会をみつめるシンポジウム『漂流する高齢者』

高齢化社会の“みらい”を考える。

超高齢化を迎えた私たちの社会。現在、全体の27.3%を占める65歳以上の人口は、今後も増加が予想されています。こうした中で社会保障や年金、介護、医療、貧困など高齢化に関する問題があげられています。さらに今後は医療・介護・福祉などを含む総合的な地域包括ケアの必要性や高齢者の心の問題もクローズアップされるなど、まさに問題山積の様相です。今回のシンポジウムでは、誰もが避けて通れないこれら高齢化の課題を皆さんとともに共有し、あるべき将来について考えを深めます。



タイトル：社会をみつめるシンポジウム『漂流する高齢者』

日 時：2016年12月10日(土) 13時30分～17時30分

場 所：拓殖大学文京キャンパスE館 後藤新平・新渡戸稲造記念講堂
(文京区小日向3-4-14)丸ノ内線茗荷谷駅下車 徒歩3分

定員 / 対象：300名 / 一般の方 入場無料

基 調 講 演：「洋七・オカンのがばい介護日記」

島田 洋七氏(漫画家)

シンポジウム：●「格差社会における高齢者の貧困～老後破産の実態」

特定非営利活動法人ほっとプラス 代表理事 藤田 孝典 氏

●「高齢者の犯罪における加害と被害」

拓殖大学政経学部教授 守山 正氏(コーディネーター)

●「認知症とともに生きる：絶望を希望に変える地域の力」

認知症介護研究・研修東京センター 永田 久美子 氏

●「介護の準備とICT(情報通信技術)の活用について」

(株)日立製作所公共システム事業部 川崎 英樹 氏

編集後記

このたび、デザインを刷新し、装いも新たに日立財団のニュースレターを発刊しました。2016年度は、社会課題の解決をめざして新たな取り組みもスタートしております。今回特集した「未来をつくるリケジョたち!」シンポジウムは、日立財団の新規事業である理工系女子応援プロジェクトの第一弾となります。また、12月にはこれまでの社会教育シンポジウムに変わり、社会的課題に焦点を当てその展望を呈示する「社会をみつめるシンポジウム」を開催しますので、そのご案内も掲載しております。そのほかは、新たに生まれ変わった「倉田奨励金」の紹介、日立スカラシップ奨学生の夏季研修旅行や茨城県日立市で毎年開催される小学生の甲子園とも言われる日立市少年少女スポーツ大会の様子など、盛りだくさんの内容でお届けいたしました。日立財団をもっと身近に感じていただければ幸いです。今後さまざまなニュースを提供していきますので、ぜひ目を通して頂きますと幸いです。皆さまのご支援とご指導をお願いいたします。

公益財団法人 日立財団

〒100-8220 千代田区丸の内一丁目6番1号丸の内センタービル12階

03-5221-6675 FAX 03-5221-6680

E-mail : hitachizaidan@hdq.hitachi.co.jp

●ウェブサイトが新しくなりました。

財団ウェブサイト <http://www.hitachi-zaidan.org>

発行日：2016年10月20日発行
 発行責任者：田村光範 / 編集責任者 高野美樹 印刷：(株)クリエイターズギルド

日立財団 人を育み、未来へ繋ぐ

NewsLetter

HITACHI
Inspire the Next

Vol.27 / 2016.10

日立財団では、年に2回、財団の活動情報を集めたニュースレターを発行しています。シンポジウム、セミナー、表彰式などの活動報告や、最新のトピックス、今後のイベントの開催予告など、日立財団に関するさまざまなニュースをお届けいたします。ぜひご覧ください!

日立財団がシンポジウム「未来をつくるリケジョたち!」を開催

2016年8月20日、東京都江東区の日本科学未来館において、日立財団主催のシンポジウム「未来をつくるリケジョたち!」が開催され、女子中学生・高校生や保護者の方々、大学生など、約80名が参加しました。本シンポジウムは、内閣府の理工系チャレンジ(リコチャレ)に賛同し「夏のリコチャレ」として開催したもので、日立財団が今年度から開始した「理工系女子応援プロジェクト」の第一弾となります。



日立財団 川村会長(前日立製作所会長)による基調講演

「どんな未来を切り拓きたいか自分で考えられる人になれるかどうかで、その後の成長が決まってきます。小さな部分でもいいから、自分が『ザ・ラストマン』だと思えることをやれるかどうか、これが非常に重要なんです。」

続くパネルディスカッションには、NHK Eテレの元コメンテーターで、人気ドラマの科学監修もされていた東京大学生産技術研究所の教授大島まり氏、これからの社会の変化を描く「未来予測レポート」シリーズを刊行している株式会社アクアビット代表取締役の田中栄氏、最先端クラスの技術で世界の注目を集めるアントレプレナー研究者であり、起業家、助教の顔も持つ玉城絵美氏という多彩な3名のゲストをお迎えしました。モデレーターは日立製作所CSR・環境戦略本部の荒木本部長が務めました。壇上では、「女性視点が起こすイノベーションとは?」をテーマに、今後の社会の変化や、理工系の研究内容や仕事、日常生活、理系と文系の違い、リケジョの社会的イメージ、センスや感性を磨くことの大切さについてなど幅広い話題が取り上げられ、有意義なディスカッションとなりました。

参加者からは、「最前線で働いている理系の方の生の声聴けて良かった」「未来がどうなっていくのか、少しでも想像すること

当日は、日立財団の田中理事長による開会のあいさつに続き、日立財団の川村会長(前日立製作所会長)による「次世代を担う君たちへのメッセージ」と題した基調講演が行われ、川村会長は日立の経営改革やグローバル化の重要性、日立の女性活用などについて述べました。加えて、日立グループで活躍する理工系の女性社員の事例が複数紹介され、その一人として紹介された社員が、参加者にエールを送る場面もありました。その社員の「理系のロジカルシンキングは、技術系だけでなく幅広い分野で活かすことができる」という言葉に、真剣な表情でうなずく若い学生の姿も見られました。



会場入口



日立財団 田中理事長によるあいさつ

ができた」「将来や進路の選択肢が増えた」「良い意味で理工系女性に対する固定観念を崩すことができた」などの感想がありました。

日立財団は、さまざまなステージで新たな科学技術やイノベーションを創出する次世代の理工系人材育成にむけ、今後も活動を推進していきます。

※リケジョは株式会社講談社の登録商標です。



パネルディスカッションの様子

理工系女子応援プロジェクト2016 「未来をつくるリケジョたち!」シンポジウム



参加者にエールを送る
日立社員



【モデレーター】
株式会社日立製作所 理事
CSR・環境戦略本部長
荒木 由季子氏



東京大学大学院情報学環 教授、
東京大学生産技術研究所 教授
大島 まり氏



株式会社アクアビット代表取締役
チーフビジネスプランナー、
有限責任あずさ監査法人
KPMGジャパン総合研究所 未来研究室 顧問
田中 栄氏



H2L, Inc. 創業者、早稲田大学 助教、
JST さきがけ研究者
玉城 絵美氏

「女性が理系に向いているかいないか、日本や海外で色々と議論されていますが、基本的に男女差はないと言われています。本当に自分の好きなことが理系やものづくりであれば、ぜひ迷いなく自分の好きな分野を選んでいただきたい。そして日本の理工系分野、ひいては日本の将来を担っていただける女性がたくさん出てきてくれることを期待しております。」

「理工系とは社会と科学技術をつなげる接点になっていると思います。今は科学だけでは答えることができない世の中になっていて、これからの科学技術はトランスサイエンスな問題の取り組みが必要です。ぜひ女性に理工系分野に携わってもらい、強くなるとともに科学技術の力を世界に活かしてほしいと思います。」

「『サステナビリティ』『クラウドコンピューティング』『ライフイノベーション』これらのメガトレンドで、これからの15年先の未来は今とは全く違う世界になります。過去の延長線上に未来はない。未来は待つのではなく、皆さんが創ってください。そしてこれからの新しい時代には、広い視野と、感性、センスが重要です。」

「私は忙しくても自分の選んだ道に進んで今とても楽しいです。理工系に進むというのは、自分で能動的に社会をデザインできる側に回ることになるんじゃないかと思っています。社会をデザインする技術を持っているというのは理工系の大きな強みです。ぜひそういった視点で理工系の進学を検討してもらえればと思います。」

※リケジョは株式会社講談社の登録商標です。

ZAIDAN Report

日立スカラーシップ夏季研修旅行

日立スカラーシップは、自然科学分野の博士号取得をめざす東南アジアの若手大学教員を、日本の大学院に招聘するプログラムです。奨学生は、帰国後母校で後進の指導にあたることも、将来日本と東南アジアの教育・学術・文化交流の中核となることが期待されています。そのため、日立スカラーシップでは様々な活動を行っており、8月には夏季研修旅行も実施しています。日頃、日本各地の大学院で学ぶ奨学生がお互いに親睦を深めるとともに、奨学生が日本滞在中に、大学院での研究だけでなく、日本の自然や文化、歴史、そして産業についても理解を深めることを目的としています。

今年は、8月22日から2泊3日の日程で新潟県を訪れました。初日は、株日立産機システム中条事業所を訪問し、スーパーエコファクトリーとしての省エネ・環境配慮型の製品づくりや、工場の取り組み



(株)日立産機システム 中条事業所にて



について学びました。奨学生の環境に対する関心は高く、製品に対する専門的な内容から地域環境への取り組みまで多くの質問が出て、大変有意義な訪問となりました。2日目は佐渡島に渡り、トキの森公園や佐渡金山史跡を訪問。トキの森公園では自然環境保全について考え、佐渡金山史跡では坑道跡を歩きながら鉱山開発の歴史や当時の生活に触れました。3日目最終日は新潟県に戻り、古くから金属加工の町として知られる燕三条市を訪問。時代に対応した新しい展開をめざす地場産業を見学しました。奨学生は最新の工場と伝統の職人技に驚きながら見入っていました。

奨学生は、夏季研修旅行をとおして様々な日本に触れ、また徐々に会う仲間と研究について語り、励ましあひながら、今年も有意義な旅を終えました。



竹内亀次郎記念杯 日立市少年少女スポーツ育成大会

茨城県日立市の小学生が所属するスポーツ団体を対象とした「平成28年度 竹内亀次郎記念杯 日立市少年少女スポーツ育成大会」を日立市体育協会と日立市スポーツ少年団本部の共催で8月20日・21日に開催しました。スポーツを通じて少年少女の健全な心身の育成と友情や連帯感を育てることを目的としており、各会場で力強い対戦を繰り広げ観客から熱い声援を受けていました。今年度は昨年のサッカーに続き、軟式野球低学年の部(7チーム、107名)を新設したこと、子供達のふれあいの輪がさらに大きく広がりました。

参加チーム数・選手数 合計97チーム、1257名

軟式野球	21チーム	319名
バレーボール	13チーム	120名
ミニバスケットボール	19チーム	227名
サッカー	37チーム	492名
バドミントン	7チーム	99名



軟式野球(低学年)



サッカー



ミニバスケットボール



軟式野球



バレーボール



バドミントン

研究助成「倉田奨励金」が変わりました。

「倉田奨励金」は株式会社日立製作所二代目社長、故倉田主税(くらたちから)が日本の科学技術の発展を願って設立を提唱し、資金を出捐したことにより昭和42年に開始された研究助成金です。

基礎科学を助成・振興することで社会に貢献することを願い、自然科学分野における先導的、基礎的研究を行う研究者を、平成26年度まで47年間支援してきました。その「倉田奨励金」が近年の社会構造の大きな変化に対応して、このたび新しい「倉田奨励金」にリニューアルしました。

新しい「倉田奨励金」では、社会課題と研究助成の関係をより明確にして、「Society5.0」の実現に貢献することを目的とし、社会課題解決に資する応用分野を助成対象としました。従来の自然科学分野に加えて自然科学と社会科学の融合分野の研究も助成します。新しい「倉田奨励金」は、グローバルな社会課題解決を担う研究者を支援します。

※Society5.0: 内閣府の「第5期科学技術基本計画」内で使用されている言葉。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな社会を科学技術イノベーションが先導して形成する。

●助成対象分野

以前の倉田奨励金

自然科学分野の先導的、
基礎的研究

- 電気・電子工学
- 情報工学
- 機械工学
- 物理学
- 有機化学
- 無機化学
- 生命科学

新しい倉田奨励金

社会課題解決に
資する応用分野

- 1 エネルギー・環境
- 2 都市・交通
- 3 健康・医療

自然科学だけでなく、自然科学と社会科学の融合分野
「ヒトと社会」も対象

今年度の募集は6月から9月に行い、2017年1月に決定、
3月に贈呈式を開催します。